

学校法人聖学院及び聖学院大学の沿革

1903 年(明治 36 年)	聖学院神学校を設立(後、青山学院神学部と合同)
1905 年(明治 38 年)	女子聖学院神学部を設立
1906 年(明治 39 年)	聖学院中学校を設立
1908 年(明治 41 年)	女子聖学院普通部を設立
1912 年(明治 45 年)	中里幼稚園(現、聖学院幼稚園)を設立
1913 年(大正 2 年)	女子聖学院家政学部を設立
1920 年(大正 9 年)	聖学院中学校、財団法人聖学院を組織
1926 年(大正 15 年)	女子聖学院普通部を本科、神学部を神学科、家政学部を高等家政科と改称
1936 年(昭和 11 年)	女子聖学院、財団法人女子聖学院を組織
1938 年(昭和 13 年)	女子聖学院本科を高等女学科に改称
1943 年(昭和 18 年)	中里幼稚園を女子聖学院附属幼稚園に改称
1947 年(昭和 22 年)	学制改革に伴い聖学院中学校、女子聖学院中学部を設立
1948 年(昭和 23 年)	学制改革に伴い聖学院高等学校、女子聖学院高等部を設立
1951 年(昭和 26 年)	私立学校法施行に伴い学校法人聖学院を組織
1960 年(昭和 35 年)	女子聖学院小学部(現、聖学院小学校)を設立
1966 年(昭和 41 年)	女子聖学院中学部・高等部・小学部・附属幼稚園の名称を女子聖学院中学校・高等学校・聖学院小学校・聖学院幼稚園に改称
1967 年(昭和 42 年)	女子聖学院短期大学英文科を設立
1968 年(昭和 43 年)	女子聖学院短期大学に国文科を増設
1975 年(昭和 50 年)	女子聖学院短期大学に児童教育学科を増設
1978 年(昭和 53 年)	女子聖学院短期大学付属幼稚園を設立
1988 年(昭和 63 年)	聖学院大学政治経済学部政治経済学科を設立
1988 年(昭和 63 年)	聖学院大学総合研究所を設立
1990 年(平成 2 年)	聖学院アトランタ国際学校(幼稚園・小学部)を設立
1992 年(平成 4 年)	聖学院大学に人文学部欧米文化学科、児童学科を増設（これに伴い女子聖学院短期大学児童教育学科を廃止）
1992 年(平成 4 年)	女子聖学院短期大学付属幼稚園の名称を聖学院みどり幼稚園に改称
1993 年(平成 5 年)	聖学院アトランタ国際学校に中学部を増設
1995 年(平成 7 年)	聖学院国際センターを設立
1996 年(平成 8 年)	聖学院大学大学院政治政策学研究科(修士課程)を設立
1998 年(平成 10 年)	聖学院大学人文学部に日本文化学科、人間福祉学科を増設
1999 年(平成 11 年)	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科修士課程を設立
2000 年(平成 12 年)	聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科を増設
2001 年(平成 13 年)	聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科に博士後期課程設置
2004 年(平成 16 年)	聖学院大学人間福祉学部を増設(これに伴い児童学科及び人間福祉学科を人文学部から改組)
2004 年(平成 16 年)	聖学院開設 100 周年 聖学院大学チャペル完成
2006 年(平成 18 年)	聖学院大学大学院人間福祉学研究科(修士課程)を設立
2012 年(平成 24 年)	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科を増設
2012 年(平成 24 年)	聖学院みどり幼稚園の名称を聖学院大学附属みどり幼稚園に改称
2014 年(平成 26 年)	聖学院大学政治経済学部を改編(これに伴い聖学院大学政治経済学部コミュニティ政策学科の募集を停止)
2017 年(平成 29 年)	聖学院大学附属みどり幼稚園の名称を聖学院みどり幼稚園に改称
2018 年(平成 30 年)	聖学院大学人間福祉学部児童学科を人文学部児童学科に改組 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科を増設（これに伴い人間福祉学部こども心理学科、人間福祉学科の募集を停止）
2019 年(平成 31 年)	聖学院アトランタ国際学校を閉校 聖学院大学大学院人間福祉学研究科（修士課程）の名称を心理福祉学研究科（修士課程）に改称

聖学院大学の理念

1. 本大学は、プロテスタント・キリスト教の精神に基づき、自由と敬虔の学風によって、真理を探究し、霊的次元の成熟を柱とした全体的な人間形成に努め、人類世界の進展に寄与せんとする者の学術研究と教育の文化共同体である。
2. 本大学は、プロテスタント・キリスト教の伝統に即してなされる礼拝を生命的な源泉とする。礼拝においては、聖書と宗教改革が証する福音が語られ、そこから大学共同体にとっての生命である研究と教育のための自由と責任、および伝道への活力、さらに本大学の伝統を継承し新たに創造する喜びと熱意とが与えられる。
3. プロテスタント・キリスト教は、特に近代世界の成立と展開に独特な貢献を果たしてきたが、それゆえまた、現代社会において固有な責任を負っている。本大学は真剣な学術研究と生きた教育、霊的強化とを通して、このプロテスタント・キリスト教の現代文化に対する責任という世界史的課題を大学形成において遂行し、希望ある世界の形成に寄与せんとする。
4. 本大学は、日本におけるプロテスタント・キリスト教の伝統およびその信仰的、文化的、教育的貢献に連なるとともに、その労苦と苦心の経験に虚心に学び、その信仰、文化、教育活動の新しい進展のために努力し、日本社会に対し新たな指標を打ち立てようとする。そのため、福音的プロテスタント諸教会の協力を仰ぐとともに、とりわけ、かつての聖学院神学校が合流している東京神学大学との協力関係を密にする。また、広く内外のプロテスタント諸大学と相互協力の関係も樹立する。
5. 本大学は、「現代文化の諸問題とキリスト教の課題」等の問題を研究する機会を提供し、開かれた大学として、プロテスタント・キリスト教の精神をもって国際化した時代と激動する社会、および地域の問題にも積極的に取組み、創造的な活動をすることによって、そのキリスト教的、文化的特色を発揮することを期する。
6. 本大学は、学校法人聖学院の設立による諸学校との精神的、財政的な一体性の中にある。また教育的にそれぞれ独自の位置と課題を尊重しつつ、それらとの密接な関連、協力の関係を持ち、聖学院全体の一貫教育の高等教育段階を担う。
7. 以上の理想のために、本大学に働くすべての教職員は、互いの人格を尊重し、各自の持ち場においてそれぞれにふさわしい責任を自発的かつ積極的に遂行するとともに、キリスト教的な愛と謙遜と熱意とをもって互いに協力し合うことが期待される。
8. 教授は、福音的自由と真理への畏敬の念をもって、学問的探究に鋭意努力し、その研究と教育を通して、時代の課題に積極的に応えつつ、新しい世代の知的、実践的、霊的次元での育成に努め、本大学の問題、伝統の確立と継承、および新たな創造に努めることが期待される。
9. 学生は、知的、実践的のみならず霊的次元において成熟し、かつ専門の学問の研鑽とその応用力の修得に努め、現代社会の課題に取組み、明日の社会を担い得る教養と良識を身につけ、豊かで個性的な人格形成に努めることが期待される。
10. 本大学は、以上の理念に基づくことによって、いかなる種類の組織体やイデオロギーの支配も介入も許さず、また私的ならびに集団的な暴力による破壊や妨害を許さない。

聖学院大学大学院の教育方針（ポリシー）

ディプロマ・ポリシー

1. プロテスタント・キリスト教の精神に基づいた自由と敬虔の学風の中で、高度で専門的な学術理論およびその応用を教授し、研究・教育機関にとどまらず多方面で高度に専門的な業務に従事するための研究能力を備えた「精神ある専門人」を養成することをめざす。
2. 真理の深奥をきわめることをとおして、民主社会を担う社会人としての良識とグローバル化した現代社会の諸問題に対する見識とをもち、さまざまな課題を解決へと導く実践的に有為な人間を育成することをめざす。
3. 修士課程は、広い視野にたって精深な学識を修得し、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を持つ者に修士号を授与する。博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を持つ者に博士号を授与する。

カリキュラム・ポリシー

1. 聖学院大学大学院の3つの研究科の共通基盤を形成する科目を開設し、現代の課題に応える学問研究のあり方を、教授、学生の共同討議によって探求する。
2. 学部卒業生、またしばらく学習から遠のいていた社会人学生が高度な研究能力を身につけるために、「研究方法」に関わる科目を置き、資料検索、調査方法、論文の書き方などを学ぶ機会を設ける。また授業以外に論文作成講座の開催や論文の中間発表をとおしきめ細かな論文作成指導を行う。
3. 各研究科は、コース、科目群を設け、専門性を深く追求すると同時に、多様かつ幅広い教養を身につけることができるように教育課程の組織的展開、構造化をはかり、大学院教育の実質化をめざす。

アドミッション・ポリシー

1. 昼夜開講制をとり、学部卒業生、社会人学生など、年齢また学習環境において多様な学生を受け入れる。それゆえ、各研究科では、専攻分野の研究を遂行するのに適した知識・学力を有するとともに明確な問題意識や強い学習意欲を持つ人を求める。
2. 幅広い知識と高度な学問理論を学び、研究あるいは社会における実践において身につけた分析能力を活かしたいと願っている人を求める。
3. 学部における学業の優れた者を積極的に受け入れ、また飛び級入学の門戸も開き、学部と大学院の連携による人材育成に取り組む。
4. 他方、現代の生涯学習社会の到来に応えるために、研究意欲のあるシニア世代を積極的に受け入れ、多様な人の育成に取り組む。

2019年度 聖学院大学大学院 学年暦

学期	月	日	月	火	水	木	金	土	備 考
春 学 期	4		1	2 入学式	3	4	5	6	4/2 入学式・ガイダンス 4/6 福祉研発表会 4/10 授業開始
		7	8	9	10 ① 授業開始	11 ①	12 ①	13 ①	
		14 ①	15 ①	16 ①	17 ②	18 ②	19 ②	20 ②	4/18 イースター礼拝
		21 ②	22 ②	23 ②	24 ジュベナリス祭	25 ③	26 ③	27 ③	4/24 授業なし
		28	29 昭和の日	30					事務局閉鎖 (4/30-5/2)
	5				1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	
		5 こどもの日 ③	6 ③	7 ③	8 ③	9 ④	10 ④	11 ④	5/6 振替休日 (授業あり) 5/11 埼玉税法研究会 5/15 キリスト教音楽会
		12 ④	13 ④	14 ④	15 ④	16 ⑤	17 ⑤	18 ⑤	
		19 ⑤	20 ⑤	21 ⑤	22 ⑤	23 ⑥	24 ⑥	25 ⑥	5/25 博士後期論文中間発表会 5/29 キリスト教と諸学の会 5/29 ペンテコステ礼拝 5/31 修士論文テーマ締切
		26 ⑥	27 ⑥	28 ⑥	29 ⑥	30 ⑦	31 ⑦		
	6							1 ⑦	6/26 教会と聖学院の懇談会
		2	3 ⑦	4 ⑦	5 ⑦	6 ⑧	7 ⑧	8 ⑧	
		9	10 ⑧	11 ⑧	12 ⑧	13 ⑨	14 ⑨	15 ⑨	
		16	17 ⑨	18 ⑨	19 ⑨	20 ⑩	21 ⑩	22 ⑩	
		23	24 ⑩	25 ⑩	26 ⑩	27 ⑪	28 ⑪	29 ⑪	
	7	30							
			1 ⑪	2 ⑪	3 ⑪	4 ⑫	5 ⑫	6 ⑫	7/6 大学院夏期入試
		7	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11 ⑬	12 ⑬	13 ⑬	7/13 大学院研修会 (授業振替)
		14	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18 ⑭	19 ⑭	20 ⑭	7/15 海の日 (授業あり) 7/18 成績評価方法発表
		21	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑭	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	
	8	28	29 ⑮	30 ⑮	31 ⑮ 授業終了				7/31 春学期授業終了
						1 補講日	2 補講日	3	8/1・2 補講日
		4	5	6	7	8	9	10	8/9 春学期課題提出最終期限
		11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17	事務局閉鎖期間 (8/10-16) 8/12 振替休日
		18	19	20	21	22	23	24	
秋 学 期	9	25	26	27	28	29	30	31	
		1	2	3	4	5	6	7	
		8	9	10	11	12 春修了生発表 成績発表	13	14	9/12 春学期修了生・成績発表
		15	16 敬老の日	17	18	19	20	21	
		22	23 秋分の日	24	25 春卒業式 秋入学式	26	27	28	9/25 春卒業式・秋入学式
		29	30 ① 授業開始						9/30 授業開始

○数字は授業回数を表す

学期	月	日	月	火	水	木	金	土	備 考
秋 学 期	10			1 ①	2 ①	3 ①	4 ①	5 ①	10/14 体育の日（授業あり） 10/16 創立記念講演会 10/19 創立記念音楽会 10/23 キリスト教と諸学の会
		6 ②	7 ②	8 ②	9 ②	10 ②	11 ②	12 ②	
		13 ③	14 体育の日 ③	15 ③	16 ③	17 ③	18 ③	19 ③	
		20 ④	21 ④	22 ④	23 ④	24 ④	25 ④	26 ④	
		27 ⑤	28 ⑤	29 ⑤	30	31			
	11						1 公開日	2 公開日	10/30～11/4 ヴェリタス祭期間 11/2 福祉研発表会 11/15 博士予備審査論文締切 11/16 埼玉税法研究会 11/23 勤労感謝の日（授業あり） 11/23 大学院秋期入試 11/27 点火祭
		3 文化の日	4 振替休日	5 ⑥	6 ⑤	7 ⑤	8 ⑤	9 ⑤	
		10 ⑥	11 ⑥	12 ⑦	13 ⑥	14 ⑥	15 ⑥	16 ⑥	
		17 ⑦	18 ⑦	19 ⑧	20 ⑦	21 ⑦	22 ⑦	23 勤労感謝の日 ⑦	
		24 ⑧	25 ⑧	26 ⑨	27 ⑧	28 ⑧	29 ⑧	30 ⑧	
	12	1 ⑨	2 ⑨	3 ⑩	4 ⑨	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑨	12/13 博士小論文Ⅰ締切 12/23 年内授業終了 事務局閉鎖期間（12/28-1/4）
		8 ⑩	9 ⑩	10 ⑪	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑩	
		15 ⑪	16 ⑪	17 ⑫	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑪	
		22 ⑫	23 ⑫	24 ⑬	25 クリスマス	26	27	28	
		29	30	31					
	1				1 元日	2	3	4	1/6 授業開始 1/20 成績評価方法発表 1月中旬 博士本審査論文締切 1/28 授業無し 1/31 修士論文提出締切
		5	6 ⑬ 授業開始	7 ⑬	8 ⑫	9 ⑫	10 ⑫	11 ⑫	
		12	13 成人の日	14 ⑭	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑬	18 ⑬	
		19 ⑭	20 ⑭	21 ⑮	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑭	25 ⑭	
		26 ⑮	27 ⑮	28	29 ⑮	30 ⑮	31 ⑮		
	2							1 ⑮ 授業終了	2/1 秋学期授業終了 2/10 秋学期課題提出最終期限 2月中旬 修士・博士論文審査 2/27 修了生・成績発表
		2	3 補講日	4 補講日	5	6	7	8	
		9	10	11 建国記念の日	12	13	14	15	
		16	17	18	19	20	21	22	
		23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27 修了生発表	28	29	
	3	1	2	3	4	5	6	7	3/14 卒業式
		8	9	10	11	12	13	14 卒業式	
		15	16	17	18	19	20 春分の日	21	
		22	23	24	25	26	27	28	
		29	30	31					

○数字は授業回数を表す

2019年度【アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科：博士前期課程】時間割

曜日	(月) 3時限 (13:00～14:30)	(月) 4時限 (14:40～16:10)	(月) 5時限 (16:20～17:50)	(月) 6時限 (18:00～19:30)	(月) 7時限 (19:35～21:05)
月	○文献講読A (日本文化学) (清水均)			○アメリカ文化学研究C (森田)	
		▲日本文化学B演習Ⅰ (村松)		▲アメリカ文化学C演習Ⅰ (森田)	

曜日	(火～金) 3限 (13:00～14:30)	礼拝 (14:40～15:10)	(火～金) 4限 (15:20～16:50)	(火～金) 6限 (18:00～19:30)	(火～金) 7限 (19:35～21:05)
火	○日本文化学研究B (村松)		○キリスト教文化学研究A (関根)	○ヨーロッパ文化学研究A (片柳)	
				○日本文化学研究A (清水正)	
				▲ヨーロッパ文化学A演習Ⅰ (片柳)	
			▲キリスト教文化学A演習Ⅰ (関根)	▲日本文化学A演習Ⅰ (清水正)	
水	○原書講読Aラテン語 (片柳)			○アメリカ文化学研究A (千葉)	
	▲原書講読Bラテン語 (片柳)			▲アメリカ文化学A演習Ⅰ (千葉)	
木			○文献講読B (日本文化学) (濱田)	○アメリカ・ヨーロッパ文化 学総論 (オムニバス)	○ヨーロッパ文化学研究B (和田)
	▲文献講読C (ヨーロッパ文化学) (和田)			▲キリスト教文化学研究C (菊地)	○研究方法特論Ⅰ (森田) ▲研究方法特論Ⅱ (森田)
金			○アメリカ文化学研究B (鳥田)	○原書講読A英語 (氏家)	
			○原書講読Aヘブライ語 (関根)	▲キリスト文化学研究B (柳田)	
			▲原書講読Bヘブライ語 (関根)	▲原書講読B英語 (氏家)	

曜日	(土) 1時限 (9:00～10:30)	(土) 2時限 (10:40～12:10)	昼休み (12:10～13:00)	(土) 3時限 (13:00～14:30)	(土) 4時限 (14:40～16:10)
土					

○：春学期 ▲：秋学期 下線科目：「必修科目」 演習Ⅱ（通年）は、教員と学生が開講日時を調整する。

2019年度【政治政策学研究科：修士課程】時間割

曜日	(月) 3時限 (13:00～14:30)	(月) 4時限 (14:40～16:10)	(月) 5時限 (16:20～17:50)	(月) 6時限 (18:00～19:30)	(月) 7時限 (19:35～21:05)
月				○憲法研究(石川) ○政治学研究(宮本) 秋集中 〈4/15、22、5/6、13、20、27、6/3、10〉 ▲社会情報学特論(鄭) ▲憲法研究演習Ⅰ(石川)	

曜日	(火～金) 3時限 (13:00～14:30)	礼拝 (14:40～15:10)	(火～金) 4時限 (15:20～16:50)	(火～金) 6限 (16:50～18:00)	(火～金) 6限 (18:00～19:30)	(火～金) 7限 (19:35～21:05)
火					○まちづくり論研究(平) ▲組織行動論研究(八木) ▲地域教育論(若原) ▲まちづくり論演習Ⅰ(平)	▲デモクラシー・人権研究 (谷口/菊地)
水					○経済学研究(柴田) 春集中 〈4/10、17、5/8、15、22、29、6/5、12〉 ○民事法(総則・物権) 木村 ○公共哲学研究(谷口) ▲研究方法特論A(柴田) 秋集中 〈10/2、9、16、23、11/6、13、20、27〉(11/27は6限のみ) ▲研究方法特論B(木村) 秋集中 〈11/27、12/4、11、18、1/8、15、22、29〉(11/27は7限のみ)	
木					○租税法研究C(佐藤謙) ▲租税法C演習Ⅰ(佐藤謙) ▲政治理論研究演習Ⅰ(高橋)	○現代社会理論研究(土方)
金					○経営文化論(金子) ○政治・政策学研究 (オムニバス) ▲政治理論研究(高橋) ▲公共政策研究(児玉)	

曜日	(土) 1時限 (9:00～10:30)	(土) 2時限 (10:40～12:10)	昼休み (12:10～13:00)	(土) 3時限 (13:00～14:30)	(土) 4時限 (14:40～16:10)
土	○租税法研究A(吉川) ▲租税法A演習Ⅰ(吉川) ▲租税法B演習Ⅰ(野田)	○租税法研究B(野田)		○民事法(親族・相続) (木村) ▲民事法(債権)(木村)	○地域文化論(佐藤一) ▲埼玉地域政策研究(櫻井)

○：春学期 ▲：秋学期 下線科目：「選択必修科目」 演習Ⅱ(通年)は、教員と学生が開講日時を調整する。

2019年度【心理福祉学研究科：修士課程】時間割

曜日	(月) 3時限 (13:00～14:30)	(月) 4時限 (14:40～16:10)	(月) 5時限 (16:20～17:50)	(月) 6時限 (18:00～19:30)	(月) 7時限 (19:35～21:05)
月	○対人援助論Ⅴ（スクール カウンセリング）（堀）	○心理学特論Ⅶ（ストレス マネジメント）（長谷川）	○共生社会特論Ⅷ （地域包括ケア）（長谷部）	○心理学特論Ⅰ（対人認知 と対人魅力）（西村）	○共生社会特論Ⅴ（高齢者の 孤立と社会関係）（古谷野）
	▲心理学特論Ⅷ（健康と医 療の心理学）（長谷川）		○心理学特論Ⅸ （福祉現場の心理学）（堀）	○心理学特論Ⅲ（学習と動 機づけの心理）（鎌原）	
	▲児童学特論Ⅰ （児童理解）（田澤）		○児童学特論Ⅳ （児童文学）（松本）	○対人援助特論Ⅳ （ピアサポート）（相川）	
	▲児童文学研究演習Ⅰ （松本）		▲発達心理学研究演習Ⅰ （堀）	▲調査研究Ⅰ 量的研究（古谷野）	
	▲児童教育学研究演習Ⅰ （佐藤）	▲共生社会特論Ⅱ （児童福祉制度論）（田澤）	▲児童学研究演習Ⅰ（田澤）	▲社会心理学研究演習Ⅰ （西村）	

曜日	(火～金) 3限 (13:00～14:30)	礼拝 (14:40～15:10)	(火～金) 4限 (15:20～16:50)	(火～金) 6限 (18:00～19:30)	(火～金) 7限 (19:35～21:05)
火				○キリスト教人間学（五十嵐） ○対人援助特論Ⅶ （アートセラピー）（藤掛） ▲対人援助特論Ⅸ（キリスト 教とカウンセリング）（藤掛）	○共生社会特論Ⅲ（社会的 養護の現状と課題）（中谷） ▲共生社会特論Ⅳ（子ども 虐待の背景と対応）（中谷）
水				▲対人援助特論Ⅷ （スピリチュアルケア）（安部）	○心理学特論Ⅳ（臨床発達 心理学）（金谷） ▲児童福祉研究演習Ⅰ （中谷）
木	[10:40-12:10] ○児童学特論Ⅵ （異文化間教育）（佐藤） ▲心理学特論Ⅴ （精神分析）（大橋）			○共生社会特論Ⅵ（少子高 齢社会と生涯学習）（小池） ▲調査研究Ⅱ 質的研究（林） ▲共生社会特論Ⅶ（高齢者福祉の 歴史と介護保険制度）（古谷野） ▲対人援助特論Ⅱ（ナラティブ・ ソーシャルワーク）（相川）	▲高齢者福祉研究演習Ⅰ （古谷野） ▲精神保健福祉研究演習Ⅰ （相川）
金	▲臨床死生学研究演習Ⅰ （藤掛）		○児童学特論Ⅲ （絵本の文化）（寺崎）	○対人援助特論Ⅲ（ソーシャルワーク・ スーパービジョン）（田村） ○児童学特論Ⅱ （遊びの文化）（寺崎） ▲心理学特論Ⅵ （心理検査法）（藤掛） ▲ソーシャルワーク研究演習Ⅰ （田村）	▲児童学特論Ⅴ （音楽教育）（久保田）

曜日	(土) 1時限 (9:00～10:30)	(土) 2時限 (10:40～12:10)	昼休み (12:10～13:00)	(土) 3時限 (13:00～14:30)	(土) 4時限 (14:40～16:10)
土	○研究法入門（古谷野）春集中 〈4/13、20、27、5/11、18、25、6/1、15〉				

○：春学期 ▲：秋学期 下線科目：「必修科目」 演習Ⅱ（通年）は、教員と学生が開講日時を調整する。

2019 年度修了要件について

【修士課程・博士前期課程 共通履修条件】

①履修登録について

- ・履修登録は学期毎に UNIPA にて行う。履修登録期間については別途確認すること。
- ・一度登録した科目を取り消す場合、UNIPA ではなく所定の用紙にて届出を行うこと。

②演習科目について

- ・「演習科目」は修士論文等を作成するための研究指導科目である。
- ・演習Ⅰの履修には、同研究科目を修得していなければならない（心理福祉学研究科は同時履修可）。
- ・演習Ⅱの履修には、同演習Ⅰ科目を修得していなければならない。
- ・長期履修制度利用者は、入学年次に演習Ⅰ、修了予定年次に演習Ⅱを履修すること。

③他研究科科目の履修について

- ・他研究科の科目（演習を除く）を履修することができる。ただし修得単位数に係わらず、修了単位として認められるのは10単位までとする。

④学部科目の履修について

- ・学部の開講科目（演習を除く）を履修することができる。登録方法についてはホームページを確認のうえ、履修登録期間内に手続きを行うこと。

【修士課程・博士前期課程 共通修了要件】

①修了要件

- ・標準2年以上在学し、「各研究科所定の必修・演習科目を含む30単位以上単位修得」すること。
- ・必要な研究指導を受け、「修士論文あるいはそれに代わる研究成果を提出し、審査に合格する」こと。

②修士論文提出条件

- ・論文提出年度までに、演習Ⅰを含む各研究科所定の単位を20単位以上修得していること。
- ・必要な論文指導を受け、所定の用紙にて「研究計画」と「論文テーマ」の届出を行っていること。
- ・大学院研修会への出席、及び修士論文の中間発表を行っていること。

③最長在籍年数

- ・休学期間を除き、修士課程・博士前期課程は4年（8セメスター）、博士後期課程は6年（12セメスター）を超過して在籍することはできない。

【各研究科別 修了要件】

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程

- ①コア科目「アメリカ・ヨーロッパ文化学総論」を修得しなければならない。
- ②秋学期開講の演習Ⅰは2科目8単位以上修得しなければならない。
- ③演習Ⅱは通年の論文指導であり、1科目4単位修得しなければならない。履修の際には演習Ⅰで修得した2科目から同演習Ⅱ1科目を選択すること。
- ④シニアコース生は、上記科目のほかに「研究方法特論Ⅰ」（文化研科目）「デモクラシー・人権研究」（政策研科目）を修得しなければならない。

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程

- ①後期課程については別に定める。博士後期課程カリキュラムを参照すること。

政治政策学研究科

- ①共通基礎「政治政策学研究」「デモクラシー・人権研究」から1科目2単位以上修得しなければならない。
- ②秋学期開講の演習Ⅰは1科目4単位修得しなければならない。
- ③演習Ⅱは通年の論文指導であり、演習Ⅰと同演習Ⅱ1科目を修得しなければならない。

心理福祉学研究科

- ①共通基礎「研究法入門」を修得しなければならない。
- ②秋学期開講の演習Ⅰは1科目2単位修得しなければならない。
- ③演習Ⅱは通年の論文指導であり、演習Ⅰと同演習Ⅱ1科目を修得しなければならない。

修士・博士前期課程
学位取得までの流れ（標準２年在籍のモデル）

学位授与フロー			研究科別イベント (論文発表)		研究指導内容
1 年 次	4月上旬	ガイダンス・履修相談	政策研：埼玉税法研究会（5月・11月開催） にて研究発表	福祉研：論文中間発表会（4月・11月開催） にて研究発表	指導希望教員の研究科目・演習Ⅰを含め、1年次に20単位以上を修得させるように指導を行なう。
	7月中旬	大学院研修会			全員出席とする。
	9月下旬	演習Ⅰ履修			指導教員は学生と協議の上「研究計画・指導計画書」を作成し、これに基づき論文作成指導を行う。
		指導教員の決定			
		研究計画書提出			
2 年 次	4月上旬	演習Ⅱ履修			指導教員の演習Ⅱを含め、1・2年次に合計で30単位以上を履修させる。必要に応じて随時「研究計画・指導計画書」の見直しを行う。
	5月下旬	修士論文テーマ提出			指導教員は指導計画に基づき論文作成指導を行う。また提出された論文テーマに沿い、中間発表会・研究会・大学院研修会に向けて指導を行う。 上記発表では出席教員が学生の発表に対して助言を与える。
	7月中旬	大学院研修会 (論文中間発表)			
	1月下旬	修士論文提出			主査（指導教員）、副査（原則2名）からなる審査委員会を設置し、学位論文審査を行う。
	2月中旬	修士論文審査			
	2月中旬	修了判定			審査委員会による審査結果を基に、研究科委員会にて学位授与の可否を決定する。
	3月上旬	修了生発表			

